

学校名 昭島市立光華小学校
校長名 眞砂野 裕 公印

令和4年度 教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、自主性と創造性に富み、心身ともに健康で人間性豊かな知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指して次の目標を掲げる。

- 健康な子 【心と体をきたえ、健康で明るく、自己管理のできる児童】
- 考える子 【主体的・対話的な学習を通して、正しい判断力、思考力、表現力を身に付ける児童】
- ◎ すすんでする子 【自ら課題を発見し、意欲的に探究し、主体的に活動できる児童】
- 協力する子 【相手の立場に立って考え、互いに認め、助け合うことのできる社会性豊かな児童】

◎は令和4年度 重点目標

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 確かな学力の定着

- (ア) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学ぶ態度を醸成するために、問題解決型の学習の授業改善を通して、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図る。
- (イ) 問題解決的な学習や体験的な活動、プログラミング的思考を取り入れた学習活動を充実させることで、自ら学び探究する意欲を高め、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を図る。
- (ウ) 児童に必要な資質・能力を明確にし、「めあて・見通し・振り返り」のある学習活動を行うとともに、指導方法の工夫を行い、習熟度別学習を通して児童が自ら考え活躍する学習を推進する。
- (エ) ICT機器の効果的な活用や学校図書館等の活用を通し、読書・言語・情報への興味関心を高め、自らの考えを発信し、仲間と共に学び、他者や社会に役立つことのよさに気付く学習内容の展開を図る。

イ 豊かな心の醸成

- (ア) 教育活動全体を通した人権尊重教育の推進により、自己肯定感・自己有用感の育成を図るとともに、思いやりの心を育み、社会の一員として、社会に貢献しようとする態度を醸成する。
- (イ) 道徳教育の充実を図るとともに、自然体験や交流活動等の学習の機会を生かし、自ら考え主体的に行動するとともに、自他を慈しみ生命を尊重する児童の育成を目指す。
- (ウ) 学級会活動での話し合いや、縦割り班活動を通して異年齢集団での交流、地域の方やゲストティーチャーとの関わり合いを深め、すすんで活動に取り組み協力する児童を育成する。
- (エ) いじめ、不登校、学校生活になじめない児童への対応として、「いじめ防止アンケート」の活用、学校いじめ防止対策委員会、不登校対策会議等を行い、SC、SSW、子ども家庭支援センター等の関係機関との連携を密にして、教育相談体制の充実を図る。
- (オ) 特別支援教室の巡回指導拠点校として通常の学級と積極的に連携し、自他を尊重し合い、共に生きようとする児童の育成を図るとともに、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を整え、児童一人一人に対する支援を適切に行う特別支援教育を推進する。

ウ 健やかな体の育成

- (ア) 体力・運動能力調査等の結果から児童の実態を把握し、「元気アップガイドブック」を活用した体力向上への取組や、「グッドモーニング60分」を活用した健康な生活習慣づくりへの取組を組織的に行い、本校としてのオリンピックレガシーとしていく。
- (イ) 安全教育年間指導計画に基づき、避難訓練、セーフティ教室、薬物乱用防止教室等の実施、防災ノートの活用を通して、安全教育や防災教育を推進する。
- (ウ) アレルギー疾患対応マニュアルに基づき、保護者・担任・学校が児童の状況を適切に把握し、食物アレルギー事故防止の徹底に努める。また、新型コロナウイルス感染予防に関する指導に努める。
- (エ) 食に関する正しい知識、性に関する知識、がんをはじめとする生活習慣病について学び、健康で安全な生活を送るための教育を推進する。

エ 輝く未来に向かって

- (ア) 小中連携教育、スタートカリキュラムの推進を行うとともに、就学前の幼稚園・保育所、中学校との交流を通して、幼保小中の連携を図り、児童にとって、安心して通える学校づくりを目指す。
- (イ) SDGsを念頭に置いた環境教育、日本の伝統・文化に関する教育、国際理解教育を推進し、国際社会において活躍できるグローバルな人材の基礎を育成する。
- (ウ) 社会に開かれた教育課程を実施し、キャリア教育等を通して、自らを見つめ、よりよい判断が出来る自律した児童を育成するための指導の充実を図る。